

# 子どもたちの育ちと学びをつなぐ 幼保小の連携

推進テーマ

～ともに関わり合いつながろう～

もえぎ野地区  
もえぎ野幼稚園  
もえぎ野小学校

# 推進テーマ設定の理由

- ・ 児童のめあてから

相手の立場を思いやり、どうすれば相手を安心させ、笑顔にできるか考えて接することができる態度を育てていきたい。

- ・ そのために

数回の交流を通して、相手のことを知り、お互いにより親密度が増すように働きかける。目的意識をもって関われるような活動に取り組むことができるようにする。



# 推進内容

- ・ 6月 幼稚園の職員との打ち合わせ
- ・ 10月 もえぎ野公園で、幼稚園の園児と1年生の交流会
- ・ 11月 それぞれの運動会に職員が参加
- ・ 12月 もえぎ野幼稚園で、幼稚園の園児と1年生の交流会
- ・ 2月 もえぎ野小学校で、幼稚園の園児と1年生の交流会

# 今年度の重点課題

- ・～今年度力を入れたこと

数回にわたる交流を通して、親密度を増し、相手意識を高めることに力を入れた。

共に過ごし、遊び、関わり合うことから、相手への思いを高め、次は「・・・のようにしよう。」という活動の意欲を引き出したいと考えた。

# 活動の実際

今年度は、4回にわたる実際の交流を計画した。秋から春にかけて、場所を変えてお互いに顔を合わせてともに関わり合う活動を考えた。10月には、近隣のもえぎ野公園で待ち合わせをし、シートを囲んでともに遊んだ。11月には、小学校に幼稚園児を招いて校内を案内する予定であった。

(※幼稚園がインフルエンザのため休園となり止む無く中止した。) 12月には、1年生が幼稚園を訪れ、ともに昔遊びを通して関わった。

2月は、入学を前に、年長児を招いて『ようこそもえぎ野小学校の会』を予定している。

- ・幼稚園の子どもたちと実際にかかわることで、相手意識を育みたい。
- ・学校の様子を知らせたい。
- ・学校の楽しいことを伝えたい。
- ・幼稚園の子どもたちが知りたいことはなんだろう。



- ★幼稚園の子どもたちのことを考えて、接し方や活動の仕方を考えることができるようにしたい。
- ★相手を思いやって関わろうとする気持ちを育て、コミュニケーション力を高めたい。

# 活動の実際

生活科の学習で取り組んだあきのおもちゃや昔遊び、学校の秘密を紹介したり、伝えたりすることを通して相手意識を高め、コミュニケーション力を身に付ける。

いっしょにあそべてうれしかった。  
また、あいたいね。  
がっこうってたのしいね。  
にゅうがくするのが、わくわくするね。

《いっしょにあそぼう！》

じぶんたちがつくったどんぐりのおもちゃであそぼうよ。  
けんだまやこま、むかしあそびをいっしょにやろう。  
がっこうのあそびをおしえるよ。

《いっしょにやってみよう！》

きゅうしよくのおとうばんさんのまねをしよう。  
おそうじもやってみる？  
べんきょうは、たのしいよ。  
  
なわとびもおもしろいね。

# 活動の実際

ようちえんのみんながたのしんでくれるようにじゅんびをしよう！



交流をめあてに、生活科の学習を進めました。



交流会の実行委員が、会の司会を務めました。



# 活動の実際

ようちえんで、いっしょにあそんだよ。

シートで、いっしょにあそぼうよ。  
どんぐりめいろだよ！  
こっちは、こまレース。



おみやげに、どんぐりのおもちやをあげよう！





# ようこそもえぎのしょうのかい

バケツのつかいかたをおしえるよ。



白衣はこう  
やってきるよ。



掃除は、みんなで  
協力してやるよ。

# 今年度の成果

本校における幼保小連携の取組は、今年度で3年目となる。昨年度、一昨年度は、コロナ禍のなかで、ビデオレターを中心として行ってきた。そこで、今年度は、お互いが出会い、触れ合ことを主眼に計画を立て、交流を行った。

実際に遊び、関わり合うことで、自然と笑顔が生まれ、「もっと...したい。」「...すればよいかも。」という意欲が高まった。幼稚園児にとっても、1年生にとっても有意義な体験となった。

異年齢児を思いやり、どうすれば相手を笑顔にすることができるのかを、肌で感じ取ることができていた。どう言葉をかければよいのかだけでなく、目線やしぐさなども、相手への思いやりにつながることを学ぶことができた。

# 課題

1小⇔1幼稚園の交流であるが、時間の確保がまずは大前提となる。幼稚園は、登園時間が広範囲に及び、10時30分以降で設定する必要があった。昼食までの時間設定と場所の設定のすり合わせ、教員の人員確保などの計画は、なかなか厳しいものがあった。

また、人数バランスとして小学校35名のクラスを一つの基準と考えて、何回かに分けて交流を持つ計画を立てた。が、実際には、インフルエンザによる休校休園のため中止も余儀なくされた。タイトなスケジュール上、延期はできないので交流を持ってないままで終わったクラスもあった。せっかく準備をしたのに、子どもたちの思いを遂げられないまま終わってしまったことが残念である。時間的に余裕のある立案計画が必須である。

# 今後の連携に向けて

秋から冬にかけて集中的に行ったので、インフルエンザ等の感染症で交流を中止せざるを得ないこともあった。今後は、感染症のリスクも考えて、夏休み前から、定期的に行うようにしていければと考える。出会って、すぐに取り組めるような遊び場や道具の充実も必要である。

また、1年生99名、年長児66名という大所帯なので、少人数での関わり合いを計画的に取り入れていく必要がある。一年生ークラスを単位として、無理なくかかわれるように年間計画を立てるようにしたい。